

ADVOCATE

Japanese Society of Health Promotion : JSHP

日本ヘルスプロモーション学会公式ホームページ <http://www.jshp.net/>

No.

10

第10号

日本ヘルスプロモーション学会
2006年4月1日発行
発行者 島内憲夫
編集者 吉岡康

学会事務局
〒270-1695
千葉県印旛郡印旛村
平賀学園台1-1
0476-98-1118 (tel/fax)
jimukyoku@jshp.net

*advocate「アドボケート」とは、ヘルスプロモーションに関するオタワ憲章の中に書かれている3つのプロセスの第一番目「唱道」のことです。

巻頭言

2期目となるヘルスプロモーション学会
健康なまちづくりのさらなる展開に向けてー

常任理事 岡 利実 (株)USP 都市空間研究所)



平成14年10月に設立されたヘルスプロモーション学会も早3年半が経過し、総会・大会が3回、ADVOCATEも10号を数えるに至りました。4月からは新役員による運営が始まることもあり、草創期を終えて2期目の学会活動がスタートすると言っても良いでしょう。

草創期では学会の組織体制や行事の開催、日常的な活動とスムーズな運営といった、言わば学会としての“形づくり”に多くの労力を費やしてきました。島内学会長を初めとした事務局の方々に改めて感謝を申し上げます。

学会の運営にはまだまだ改良を加えていかなければならないでしょうが、学会員が200名を超え新体制となった2期目においては、部会活動や委員会活動の更なる活性化が大きな活動目標となるのではないのでしょうか。

私個人としては、都市計画を専門とする立場から主に“健康なまちづくり”を実践する活動により幅広く参画していきたいと考えています。これまで「福祉のまちづくり」「バリアフリーのまちづくり」「ユニバーサルデザインのまちづくり」といったモノづ

くりの計画・設計・改善に関わり、また郊外ニュータウンにおける住民参加による健康なまちづくり活動等に関わってきた経験をさらに深化させ、次代のヘルスプロモーション活動につなげていきたいと思えます。最近仕事で関わることの多い密集市街地の環境改善などにうまく結びつけられれば実りは多いと思えます。

大都市の密集市街地は、低所得者層が多いだけではなく、高齢化が進み、独居老人・ひきこもり老人が災害時にはあつという間に焼失してしまいそうな老朽木造住宅に多く住んでいます。現在は道路や避難路の整備や住宅の建替支援の仕組みづくりといったことに主に携わっていますが、「健康な生活は、良好な人間関係や豊かな生活環境から生み出される」というヘルスプロモーションの身近な実践フィールドとして、モノづくりだけでなくヒトづくり・地域づくりの場になっていけばと考えています。

勝手に2期目などと位置付けてしまいましたが、会員の皆さんと一緒に様々な活動を盛り上げて、振り返って、ヘルスプロモーション学会の発展期であったと言われるような時期にしたいですね。

たいせつなお知らせです

――― 学会費納入にご協力ください！未納者が多数います

会員の皆様方には、毎年新年度のはじめにその年度の年会費納入をお願いし総会において収支決算を報告しておりますが、平成17年度は、会員数206名(平成18年3月10日現在)のうち未納者が103名おり、財務的にも学会運営が大変苦しい状況にあります。そこでお願いですが、会員各位におかれましては今一度年会費払込状況をご確認いただき、未納者につきましては早急に払込手続きをお願い申し上げます。また、平成18年度(今年度)の払込につきましてはADVOCATE10号(本号)送付時に同封された専用払込用紙をご利用ください。

<一般会員3000円 学生会員1000円 賛助会員一口10000円>

振込先：郵便局：00180-3-571047 日本ヘルスプロモーション学会

(払込用紙には「会員氏名」・「一般/学生/賛助会員の種別」を明記ください。)

詳細は4面

特集 新役員(任期:平成18年度-20年度)からのメッセージ



学会長 島内 憲夫 (順天堂大学)

ヘルスプロモーションは、確実に進化し続けています。オタワ憲章を継承発展させたバンコク憲章が昨年提唱されました。2002年に設立された日本ヘルスプロモーション学会は4年目を迎え、新しい役員によって新たな船出をいたしました。グローバル時代の中で、私たちは健康とその決定要因を改善することによって、人生を豊かにできるかつてないチャンスを与えられています。新理事並びに会員の皆様と共に地球サイズの愛をもって、健康で幸せな社会づくり活動～ヘルスプロモーション活動～を推進して参りたいと思います。



副会長 山本 春江 (青森県立保健大学)

第4回の学会を青森でお引き受けすることになりました。個人としては大変荷が重いのですが、幸い「いいわよ」と頼もしく、また「手伝うわよ」とやさしく、あるいは「仕方ないわね」とあきれて、まあそのような周囲に助けられて、とりあえず開催の準備をスタートさせることができました。2006年11月11日(土)、12日(日)の開催に向けて、どうか会員の皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



副会長 建野 正毅 (国立国際医療センター国際医療協力局)

「ヘルスプロモーションの概念を国際協力へ」をモットーに国際協力に取り組んできました。この3年間学会にはいろいろ教えていただき、その成果はブラジルやボリビア、ラオス等の現場で生かされています。途上国からの研修生も日本の「まち作り」の現場を体験しながらヘルスプロモーションの概念を自分たちの地域に根付かせようと努力しています。これらの現場の指導者の多くは学会員の方々の、様々な形で学会にお世話になっています。我々「国際協力屋」も学会と共に発展していく所存で居ますので、これからもよろしくお願いします。



常任理事 岡 利実 (株)USP 都市空間研究所)

建築・都市計画を専門とするコンサルタントとして、まちづくりに関わる調査・計画・設計・施策等を行ってきました。ヘルスプロモーションの基本理念を用いて新たなまちづくりが展開でき

ば、と思います。そのためにはヘルスプロモーションの概念も幅広く実践的なものに拡張していくことも視野に入れていくべきとも考えています。引き続き総務企画担当として、微力ながら学会運営をお手伝いすることになりましたので、よろしくお願い致します。



常任理事 尾形 聡(おがた 歯科)

前副会長を務めましたが十分にお手伝いできなかったところ、今回は総務委員委員長とのことですが十分にできるか心配です。学会設立から携わらしていただ

いておりますが、皆さんの協力なしにはできません。これからも島内会長を支えていければと思います。



常任理事 笠井 喜久雄(白井市役所)

引き続き常任理事の要職に就くことになりました白井市役所の笠井です。会員の皆様よろしくお願い致します。私は、市役所の職員として企画課・健康課で8年間「健康なまちづくり」の担当者

として、市民の皆さんとの参加・協働を基本に取り組み、多くの事を学び、いろいろ人達と交流をすることができ、充実した公務員生活を送ることができました。そして、2月に東北ブラジルの「健康なまちづくり」プロジェクトに参加してきました。これらの貴重な経験や体験から、「健康なまちづくり」は世界共通の願いであると再認識しました。この素晴らしいまちづくりを皆さんと一緒に推進して行きましょう。



常任理事 齋藤 恭平(函館短期大学)

ヘルスプロモーションが標榜する Think Globally ! Act Locally !。私はこの 10 年間ひたすら Act Locally に徹してきました。北海道の人口 3,000 人程度の町村の健康づくりをひたすら支援してきました。感じたことは、健康づくりに対する住民の想いとパワーです。この思いとパワーを生かした日本的なヘルスプロモーションを、何とか創造してみたいと考えています。今回は常任理事という大役をいただきましたが、日本で一番最初にヘルプロを啓蒙普及した一員であるという責任を感じつつ、益々のヘルプロの普及と学会の発展に寄与できるよう、頑張ります。



常任理事 助友 裕子(順天堂大学)

「ヘルスプロモーションは生活者の論理」を念頭に、私自身は長女から妻そして母と役割を増やしながら日常生活の中で「論理」の遂行に励んでおります。そういえば、東京武蔵野の地に越してきて三年目、自宅から駅に向かうほんの数分の路上で挨拶のできる友だちが増えました。そうです、地元でもスッピンで歩けなくなりました(笑)。。こんな調子で本学会でも楽しんでお化粧する感覚でニューズレターづくりをしていきたいと思っておりますので、皆さまからのお便り^{なにか}とどんどんお寄せください！会員相互の「健康な〇〇づくり」をていねいにお手伝いしたいです。



常任理事 高村 美奈子(順天堂大学)

学会の設立から早四年。この間にヘルスプロモーションはオタワ憲章からバンコク憲章へそして私は学生から研究教育者へと歩んで参りました。そのような中で学会を通じて学び、心

に熱く感じたものに、『ミッション』の重要性があります。新年度を迎え、改めて世界へ広がるハッピーネス研究・パートナーシップ溢れる実践を目標に、ミッションを持ち、さらなる成長を目指していきたいと思えます。大好きな日本から世界の人々へ、そして学会事務局として会員の皆様へ素敵なメッセージを発信していけたら幸いです。よろしく願いいたします。



常任理事 西田 美佐(国立国際医療センター)

パキスタン、ブラジル、ボリビアなどの海外や、国内で、地域保健・栄養(教育)プログラムを当事者参加型でアセスメント・計画・実施・評価する活動や研究に関わらせていただいておりますが、いつも心の拠り所になっているのは、大学時代に学んだ食生態学と島内先生に教えていただいたヘルスプロモーションです。現在支援中の「東北ブラジル健康なまちづくりプロジェクト」でも、島内先生はじめ本学会の関係者の皆様に色々なかたちでご協力いただき、ブラジルのカウンターパート共々感謝しています。今後ともよろしく願い致します。



常任理事 吉岡 康(千葉県健康福祉政策課)

このたび総務企画・情報を担当することになりました。この2年間、感染症などのリスクファクターを対象とした、健康危機管理に取り組んでまいりました。ハッピーなイメージのヘルスプロモーションとは対極にあると思いながら、危機対策のプランを作り、模擬訓練などを行ってききましたが、多くの方々との協働作業の中で、危機管理も行動の原理はヘルスプロモーションであることに気づきました。ヘルスプロモーションという幅広い分野の包括的な概念を、子供たちに「あたらしい健康のはなし」として、引き続き唱道していきたいと思えます。

連載

NORIEのヘルスプロモーターイングリズム (第5回)

会員 田口 師永

号が変わるときにはすでに次の街。去年のうちに香港公演も終了し、2000年はノースアメリカツアーが始まりました。最初の街、サンディエゴからの便りを。年末年始は久々の長い休みとあって日本にてゆっくりと過ごしました。そしてここ2年、誕生日はステージの上で迎えていたのですが、今年(三〇)という区切りの歳、日本でゆっくりと向かえているのもまた、これまでの自分とこれからの自分を振り返ることができてよかったのかなと思えます。最近読んだ本の一節に「三〇歳の誕生日に何をしていたかでその人の人生が決まる」と書いてあったことが強く心に残り、自分の生活を振り返って、きつとそういうことなのだと思っております。アメリカへは何度か訪れたことがあったのですが、そこに暮らしてみても初めてその広大さを感じることができたと思えます。今までに訪れたどの国どの街よりも自動車社会であり、道と道とをつないでいくその精神を感じつつ、いつまでペーパードライバーでいることができるかなと思っております。



●たぐひのりひさ ●国際的エンターテイメント集団『シルク・ドゥ・ソレイユ』本拠地カナダに所属『キダム』スキップ・ロップ(なわとび)ソロ出演『キダム』日本人初のアーティスト。現在世界各国をツアー中。

まもなく創刊

学会誌『ヘルスプロモーションリサーチ』

おまたせいたしました！ヘルスプロモーションに関する研究・活動報告などを学術的な視点からとりあげる専門誌『ヘルスプロモーションリサーチ』がまもなく創刊されます。本誌は、会員の皆さまからの論文投稿により構成されていきますので、投稿規定(本ニューズレター送付時にも同封されています)をご覧ください、積極的に投稿しましょう。創刊号は、学術大会での講演・シンポジウムのテープ起こし等を中心に構成されています。お楽しみに！

トピックス

Vol.9

ヘルスプロモーション
グロッサリー

- 17.能力の付与(Enabling):ヘルスプロモーションにおいて、能力の付与とは、個人あるいは集団のエンパワメントに際し、パートナーシップの中で共に行動を起こすことを意味する。このことが、人材と適切な資源の動員を通じて彼(女)らの健康を守り高めていく。(WHO, 1998)
- 18.グローバルイゼーション(Globalization):グローバルイゼーションは、人・物・思想の相互依存性やその拡大を助長する。ゆえに、莫大な技術進歩によってしばしば強調されることもあれば、経済運用や政治的意思を必要とするときもある。(Kickbusch, 2001)

平成17年度会計報告

<収入の部>

項目	内容	金額	備考
平成16年度繰越金		108,008	
学会費	年会費(H16未納分)	一般会員 15,000 学生会員 1,000	一般会員@3,000×5名 学生会員@1,000×1名
	年会費(H17)	賛助会員 30,000 一般会員 225,000 学生会員 7,000	賛助会員@10,000×3名 一般会員@3,000×75名 学生会員@1,000×7名
	入会	一般会員 84,000 学生会員 6,000	一般会員@4,000×21名 学生会員@1,500×4名
			(*会費未納者98名)
収入合計		476,008	[A]

<支出の部>

項目	内容	金額	備考
通信費	FAX機器	29,500	
	ヤマト便	66,610	
ニューズレター作成費	印刷費	18,603	
	用紙・ラベル費	6,300	(振込手数料420)
広報資料等作成費	プロバイダ更新費	34,465	(振込手数料315)
事務局経費	事務局作業人件費	120,000	(10,000×12カ月)
第3回総会支援費		200,000	
支出合計		475,478	[B]
次年度繰越金([A]-[B])=		530	

*第22回常任理事会が開催される前日の平成18年3月10日現在会員数206名に対し、平成16年度会費未納者が37名、平成17年度会費未納者が103名と今年度に限っては半数の会員がまだ会費を納入されていないこととなります。(金額にすると364,000円)また、平成17年度は25名の入会があったため、継続会員の未納者が多いことが心配されています。会費未納者については、事務局から直接電話をするなどの対応も今後検討されています。

*事務局では、逐次ニューズレター発送と同時に会員個人へ未納入年度が記載された振込用紙を同封して、再度納入を呼びかけております。また、自宅の転居や所属の異動などにより住所変更された会員の皆さまにおかれましては、すみやかにご連絡くださいますようお願いを申し上げます。(特に学生会員から一般会員へ移行される会員の方。)

「会員の声」を募集しています！

身の回りの活動、日頃思うこと、ニューズレターに対するご意見、学会に対するご意見等、会員の皆さまからのご投稿をお待ちしております。

jimukyoku@jshp.net

編集後記 ADVOCATEはおかげさまで第10号を発行するに至りました。役員も入れ替わり、新たな体制でスタートを切った本学会。北から南から会員の皆さまのお便りをお待ちしています。私の近くでは本号編集中に葉桜シーズンを迎えたのですが、北海道ではまだ雪だとか・・・。(助友)

©本印刷物の無断転載を禁じます。